

研究奨励賞

日本色彩学会研究奨励賞 受賞のご挨拶

Message upon Receiving the CSAJ Research Encouragement Award

何 元元

He Yuanyuan

宇都宮大学

Utsunomiya University



このたびは、日本色彩学会研究奨励賞という荣誉ある賞を賜り、心より光栄に存じます。選考委員の皆様、並びに学会関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。受賞対象となった論文 "Relationship between brightness perception and skin color influenced by experimental method" は、私の博士課程における研究の一部であり、肌色が顔の印象評価に与える影響を、実験手法や文化的背景の観点から検討したものです。

本研究では、「顔の明るさ知覚」において、肌色のトーン（赤み・黄み）がどのように知覚に影響を及ぼすのか、また評価方法（マッチング法 vs. 印象点数評価）やスケール刺激の種類（均一色パッチ vs. 顔画像）が結果にどのような違いをもたらすのかを明らかにしました。さらに、日本・中国・タイの3カ国の観察者を比較することで、東アジア文化圏における共通性と相違性についても検討を行いました。この研究を通じて改めて実感したのは、顔の「明るさ」という感性評価が、単なる物理量(L*)としてではなく、評価者の文化的背景や判断基準によって左右されるということです。こうした知見は、顔色の知覚に関する基礎的理解に寄与するとともに、国際的なコミュニケーションや、化粧品開発などの応用領域にも広がりうる可能性を秘めていると信じています。

研究を進めるなかで、自分の知識や視野の狭さに何度も気づかされ、自らの未熟さを痛感する場面も少なくありませんでした。そのたびに、周囲の的確なご指導に支えられ、学びの喜びと研究の意義を実感することができました。特に、千葉大学在籍時に温かくご指導くださった溝上陽子教授には、心より感謝申し上げます。先生は、私が外国人であることを理由に特別扱いされることなく、常に他の学生と同様に、時にそれ以上に高い期待をもって接してくださいました。研究会から国際学会まで多くの発表の機会をいただき、おかげさまで視野を大きく広げることができました。また、論文の構成や表現、発表準備などについても一つひとつ丁寧にご指導いただき、

そのすべてが現在の私の研究・教育活動の基礎となっています。国際的にご活躍される女性研究者としての先生の姿を拝見し、私自身も研究者として歩んでいきたいと思うようになりました。

現在、宇都宮大学では、所属学科・研究室の先生方のご指導のもと、助教として教育・研究に取り組む日々を送っております。その中で、かつて周囲から受けた丁寧なご指導の精神も思い返しつつ、学生の背景や個性に応じたサポートを心がけています。いただいたご恩を、次の世代につなげていけるよう、今後も研鑽を重ねてまいります。

加えて、千葉大学の先生方には、研究活動や議論を通じて、多くの学びをいただきました。こうした国内でのご指導に加え、タイ・RMUTT等の先生方や学生の皆様との国際共同研究では、異文化理解と協働の難しさ、そして楽しさを体験する貴重な機会にも恵まれました。加えて、日頃より支えてくださった多くの先生方、そして被験者としてご協力くださった皆様にも、この場を借りて心より御礼申し上げます。

私が初めて色彩学会で発表したのは、2020年でした。それまでに国際学会での発表経験はありましたが、日本語での国内学会発表は初めてで、大変緊張したことをよく覚えています。それでも、多くの励ましやご助言をいただき、その経験が研究者としての自信を育てる大きな一歩となりました。色彩学会は、専門領域を超えた多様な視点に触れられる貴重な場であり、色を通して人のこころや社会のあり方を探求する研究者たちとの出会いが、私の人生そのものを彩ってくれました。外国人研究者として、文化や国籍を超えて受け入れていただいたことにも、深い感謝の念を抱いております。

最後に、今後も、色彩に関する研究を通じて、人の感性や他者理解のあり方について探究を続けてまいります。文化や背景の違いを考慮しながら、社会に役立つ知見を発信できるよう努めてまいります。